

協働によるまちづくりワークショップ（三里地区）まとめ

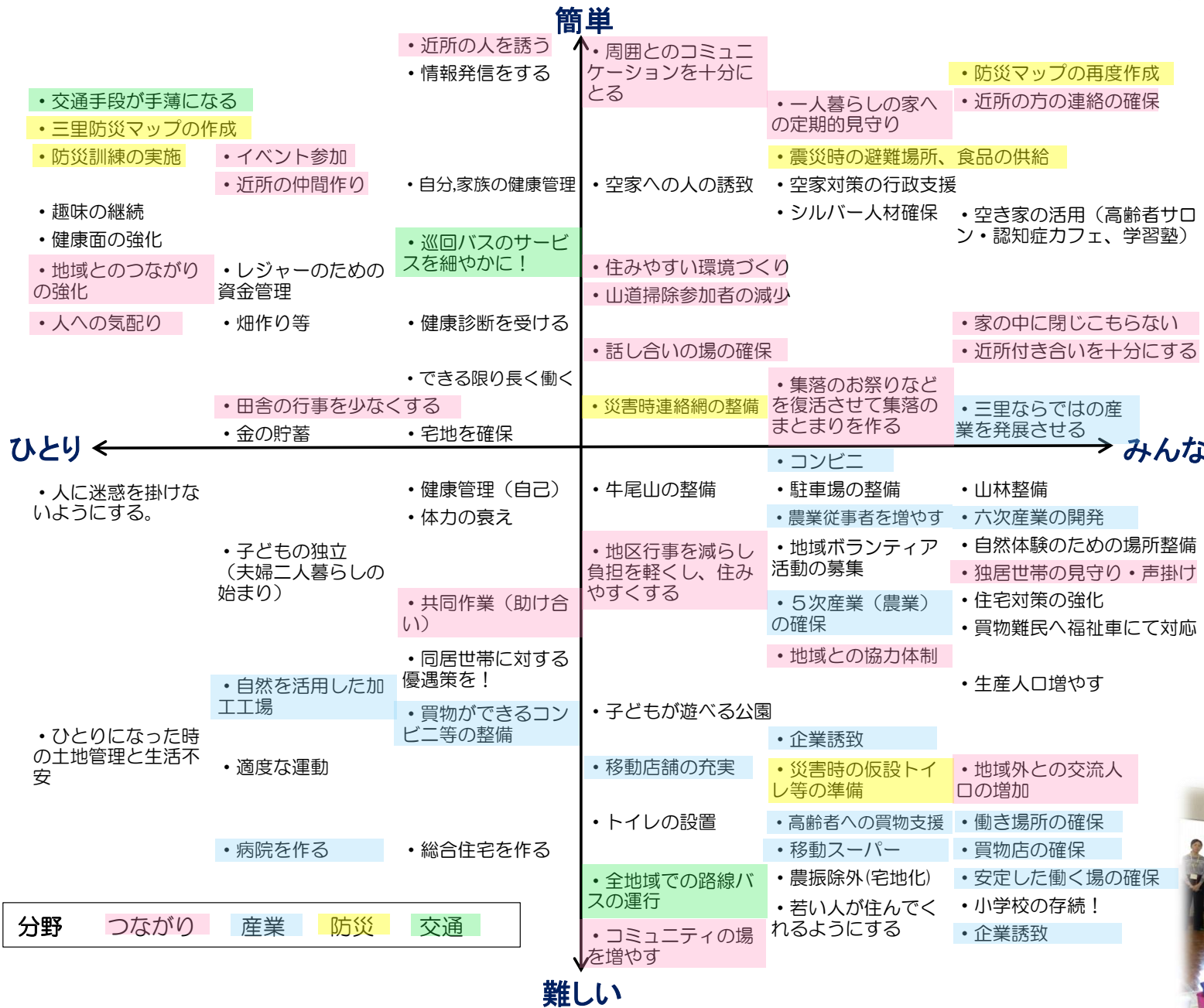
○表題：三里地区の将来に備えることをみんなで考えよう!!
 ○日時：平成28年11月6日（日）9：30～12：00
 ○場所：三里支館 集会室
 ○参加者：三里住民 45人、市民団体 2人、その他 1人 計 48人
 ○ファシリテーター：(株)アダプトネクスト 熊野 たまみ さん
 ○ワークショップの方法：4～5人をひと班として、12班に分かれワールドカフェ方式で実施。



◎ワークショップのまとめ（発表） ～三里地区に「大切なこと」は？～



◎ワークショップ ～10年後の備えとして何が必要？～



1班

- ・まじめにこつこつと健康に注意し、三里の為に長生きする。
- ・子どもが都会に出て行かなくてよい場所にしたい。
- ・親を大切にすることも・孫を育てる。

2班

- ・宅地の確保（農振除外）
- ・巡回バスの順路を再考（交通手段の確保）
- ・共同作業（祭）などを隣接集落と連携して行う。
- ・三里ならではの産業を生かす。（梅祭り等）

3班

- ・近所とのコミュニケーションを取る様に努める。（イザというときの為に）
- ・地域の伝統行事を引き継ぐ若い人を育てる。
- ・将来の高齢者の交通手段を考える。



4班

- ・農振除外を何とか実行し、集合住宅地を確保したい。
- ・「牛尾梅林」の知名度を上げ地位の活性化を図る。
- ・高齢者が安心して暮らせる地域づくり⇒地域がまとまる。
- ・小学校の存続！

5班

- ・空き家が増える。→高齢者サロンにする。
- ・高齢によりいろんな参加者が減る。→時間と回数を減らす!!

6班

- ・三里小学校を残す。
- ・人口を増す。
- ・空家活用。
- ・農地の宅地化。

7班

- ・人口の増加（20代～40代）
- ・住宅対策（空家の利用 他地域より流入）
- ・働き場所の確保
- ・高齢者に対する買物対策
- ・移動スーパー

8班

- ・三里地区にアパートを建てる。
- ・10年後を見据えた場合、若い世代の参加を促す様な場を設ける。
- ・梅まつりを三里地区のイベントとして大々的に行い、活性化の継続を図り、三里地区のアピールを行う。

9班

- ・三里の景観を守る。（山・田んぼ）
- ・自然災害から守る。

10班

- ・地域の事は皆で助け合っ
- ・豊かな自然を活かした5次産業（農業）の創出。
- ・高齢者が楽しく生きがいを感じる場所（施設等）の確保。
- ・若者が三里に住みたいと思うような住環境づくり。



11班

- ・出た人が戻ってきた地域づくり。
- ・三里の自然を残す。
- ・グループの枠を超えた話し合い。

12班

- ・住宅地の造成。
- ・若い人に住んでもらう。
- ・交通手段、送迎の確保。（買い物・通院等）

◎感想

- ・年代の違う方との話し合いは初めてでしたが、各グループの問題点は同じでした。（40歳代・女性）
- ・みなさん、三里地区のことを大切に考えておられると感じました。私も、私なりに三里の行事に関わっていきたくと思います。（60歳代・女性）
- ・地域づくり、若者との交流など重要な問題を問題とせず、解決することの重要性の手掛かりになると感じました。（50歳代・男性）
- ・三里の現実を見つめ、今、我々が出来ること、真剣に議論できたと思う。年齢が60歳過ぎた住民に10年後の生活は想像できない。（60歳代・男性）
- ・みんなで三里の事を考えた事は楽しいです。（30歳代・男性）
- ・助け合い、みんなで行動・実践。自分でできることは、自分でやろう。コミュニティ、インフラの再生、三里小学校を核として活性推進。（70歳以上・男性）
- ・若い世代（10代～40代）の参加があれば、また違った内容になりそうですね。（40歳代・男性）
- ・子育て世代の参加を増やす仕組みを！（40歳代・男性）

